

[沖縄通信⑥]

● 8月5日（金）：台風5号

昨日から台風が接近し、今回は上陸こそしなかったが昼頃最接近となった。5月の台風5号の時は塩害で大変だったが、今回は風が強く速度が極端に遅いためになかなか通り過ぎてくれない。学校は昨日に続き今日も休校。

4年前西表島に住んでいた時に台風の直撃を受けた。その時には最大風速78mを記録したが、今回はそれよりは小さい。只今19:30、朝からちょこちょこ停電があったが、すぐに復旧していた。しかし今回は長い。西表のときには1週間停電だったので、それを思えばどうってことない。ローソクでの生活、今思えば懐かしい。

漢那の家の前の川が午前中満潮と重なって溢れそうであったが、今は潮が引いているので何とかあふれずにいる。

西表の家は周囲を防風林に囲まれていたので、台風の大きさを感じなかった。しかし今回は周囲が何もないので、雨風が直接家を襲ってくる。ましてや前の川もある。昔の人の知恵ってすばらしい。

本来なら今日の便で帰る予定であった。去年9月に亡くなった姉の1周忌が明日あり、それに出席するはずであったが残念ながらできなかった。

● 9月7日（水）：相模台病院に入院

2年前の7月25日に琉球相撲の大会で右膝を脱臼し、その時前十字靭帯の完全断裂と内側半月板を損傷した。今年の3月に入院してオペの予定であったが、3/11の東北大地震のため延期となった。60歳以上の人にはあまり再建手術を勧めないとのことであったが、無理にお願いして手術の運びとなった。

左膝は23年前に同じく前十字靭帯の再建手術をしている。その時は膝を全部開いて行ったのであるが、現在では内視鏡下での行うのが主流である。そのため術後1週間ちょっとで退院できる。左膝はここ数年正座ができなくなり、また少しひっかかりも出てきている。右膝が無事終わったら左膝も再度手術し、残りの人生をもうちょっといい状態で送っていきたい。

● 9月9日（金）：手術日

12時半に手術室に入り、手術台に横たわる。不安がよぎるが、ここまできたら“まな板の鯉”である。眠っているわけだから、信頼して任せるより方法がない。今回は腰椎麻酔と全身麻酔の併用である。前投薬を静脈より注射し、それですぐにトロツとしてくる。

その後のことは全く分からない。気がついたら病室のベッドの上である。時間は午後5時。目は覚めたものの、意識はまだまだトロンとした状態である。下半身は未だ麻痺しているため一人では動かせない。

時間が経つにつれて麻痺が取れてきたが、完全にとれたのは夜中頃だった。

左膝の手術をしたときの記憶が蘇ってくる。手術なんかしないにこしたことはない。でも後先考えずにやってしまったことだからしょうがない。自業自得である。この性格は死ぬまで直らない！まあ、あとはリハビリに専念しよう。

●9月10日（土）

下半身が麻痺しているので、尿道にはカテーテルが入っている。尿がたまってお腹が張っているのだが、自分の力では尿を出すことができない。何とももどかしさを感じる。昼過ぎにカテーテルを抜いてもらい、何とかトイレで排尿することができるようになった。大便の方はまだまだ便意を催してないが、ベッドの上で排便するのはなかなか難しいように思える。

●9月12日（月）

昼間寝ているせいか、夜9時の消灯後あまりよく眠れず、夜中に何度も起きてしまう。昼間はなるべく眠らないで起きておこう。

朝食後3日ぶりに排便があった。今まで毎日必ずあったので、この3日間はこたえた。体重は入院前より3kg以上増えている。身体を動かすことができないし、8時・12時・6時に3食きちんととっているせいであろうか！

少しづつ足のむくみもとれてきている。20年以上前に左膝の手術を受けた時には、内視鏡下ではなく膝をあけて直視下で行ったので1ヶ月以上入院生活を送ったが、今回は10日前後で退院できそうである。

病院の中にいて分からないが、全国各地残暑がかなり厳しいようである。埼玉あたりでは34℃くらいになったと聞く。沖縄では高くなっても32℃くらいまで上がればいい方である。ただ内地と違って紫外線の注ぐ量は半端じゃないけれど----

早く沖縄に戻りたい～。

●9月13日（火）

術後すぐに装着した固定をはずし、膝を曲げやすいように新しい装具を装着した。内視鏡下での手術なので、外科的侵襲が少ない。そのため早いうちから膝の曲げ伸ばしを行うことができる。左膝の時は石膏でガチガチに固められ、1ヶ月はそれで固定を行っていた。長く固定していた方が確かにキッチリつくの

であるが、固定をはずした後のリハビリが大変である。曲げ伸ばしがちゃんとできるようになるためには、かなりの日にちを要した記憶がある。

膝だけでなく現在では内視鏡下で行う手術が増えているので、身体に負担も少なく早い時期からリハビリが開始でき、社会的な復帰も早くなっている。

● 9月16日（金）

術後1週間が経った。何とか右の1本杖の使用で、歩行は可能である。あと入院していてもやることがないので、めでたく退院の運びとなった。当初持ってきた荷物を送ってしまえば一人で何とか帰れるかな？と甘い予想を立てていたのだが、やはりそれは無理だと判断した。何せここは相模台病院。小田急線相模原の近くである。南千住までは2時間かかる。何とか車で迎えに来てくれるよう、平身低頭して家族に頼んだ。気ままに勝手なことをしていても、何かあったら頼れるのは家族しかないな、と痛感した次第である。

病院を出たのが午後3時半。家に着いたのが午後5時近くになっていた。すいていれば車だと1時間で着くのであるが、時間がちょうど帰り重なってしまったので、高速道路が渋滞していた。

自分の家は落ち着いていいねえ！ただどこの家でもそうだと思うのだが、最初からバリアフリーを考えて家を造る人ってあまりいないよね。今こうやって足が不自由になって初めて感じるのだけれど、健康なときに建てた家というのは全くそういうことを考えていないので、障害者にとっては住みにくい。今後高齢者が増えていくという現実にあたり、高齢者・障害者にとって住みやすい家を最初から念頭において、家造りをしていく時期にきているのだろう。

● 9月18日（日）

右膝は何とか少しづつ屈曲できるようになっている。昨日南千住に居ても何もできないので、車を運転して茂木まで来た。こちらに来るのは勿論東京と違って環境がいいのと、自分一人で何でも行わなければいけないのでリハビリも兼ねている。それにここだと落ち着いて授業の資料の作成ができるので、内地に帰って日にちがある時には一人で来るようにしている。

茂木は建てて18年になるが、当初は毎週必ず来ていたし、それが毎月になり、半年に1回になり、1年に1回になっていった。西表島に赴任した時には内地に全く帰らなかったが、内地に帰って行った時には敷地の周りは雑草でジャングルと化していた。

本島に勤務するようになってからは、日にちがある時には努めて来るようにしている。しかし寂しいもので、いつも行く時は一人。家族は殆ど来なくなってしまった。その方が気楽でいいのであるが-----。

将来はここに 100 畳程度の体育館を建て、露天風呂を造りたい。そうすれば空林会の総本山として、空手道・古武道・居合道の合宿も行えるし、近くにはホンダのレース場である「ツインリンクス」があり遊べるし、益子で陶芸もできるし、いろいろな観光地があるので是非立ち寄ってもらいたい。これが私の残された人生の中での最大の夢であり目標である。

それにしても暑い！今日は 32℃。ここはエアコンがないので、昼間はちょっとたえる。ただし夜は寒いくらいに気温は下がってくる。

●9月21日（水）

今年は台風のあたり年なのだろうか！台風15号が沖縄に向かっていたのだが、迷走を続け今日あたりには紀伊半島あたりに上陸の恐れが出てきた。紀伊半島は台風12号の爪あとがまだ残っているのに、また台風を狙われている。地域住民の方々は本当に大変な思いをしていることだろう。今年は日本列島多くの災害にみまわれている。自分の身の回りにいつ降りかかってくるか、分からない。防災意識が高まっているが、心構えとそれに備える準備だけはしておいた方がよいであろう。

●9月24日（土）

今回の目的は右膝の手術。無事？終了し沖縄への帰途についた。

JAL917便 13:15 羽田発で 16:00 には那覇空港に到着した。天気予報は 50% の確立で雨。曇ってはいるが、何とかもちそうだ。空港駐車場にバイクを停めてある。戻っている日にちが長かったので車ではなくバイクにしたのだが、右膝がちゃんと曲がるかどうか心配である。

またがって膝を曲げてみる。何とかフットレストの上に右足を乗せることができた。バイクの右足は後輪のブレーキなのだが、ただのせているだけで踏むことは難しい。右手が前輪のブレーキなのでスピードを出さなければ、何とかなりそうである。最初は恐る恐るであったが、しばらくするうちに慣れてきた。

1時間ほど走り、漢那の我が家「オレンジハウス」に到着！久しぶりの我が家にホットー安心である。

来週から学校が始まる。痛み・腫れがなくなり、膝が曲がるようになるのはいつ頃であろうか？？

[沖縄通信⑦]

● 9月29日（木）

午前1時31分、長女佳津良に第2子が誕生した。紅凜に続き、女の子である。どういう訳かうちの家系は、3人子供でそれも女・女・男の順である。私の上も二人女であるし、長姉の子も、次姉の子も同じである。次に期待しよう！

まあでも、無事に生まれてよかった。母子共に健康であるという。28日は仏滅であったので、どうせ生まれるなら29日の大安がいいと思っていた。それが29日に日付が変わってから生まれた。縁起をかつぐ方ではないが、気持ちの上ではやはり大安の方がいい。それがその通りになった。

ウサギ年の孫。私とは60歳違う。佳津良も私の母とは干支が同じで60歳離れている。紅凜とは別の意味で、またうれしい！

